

7

ナルニア国物語 2

ライオンと魔女と衣装だんす

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)









そのときは

また
ターキッシュ・
デライトを
食べさせて
やろうぞ



いまは
もうこれ以上
やるわけにはゆかぬ

魔法は一度きり
なのでな



わらわの館へ
行けば

話は
別であるが



いますぐ
行くわけには
いかないのですか？



わらわの
館は

それは
美しい
ところじゃ



そちも

かならずや
気に入るであらう



しかも
わらわには
子がおらぬゆえ

りっぱな男の子を
育てて王子とし

わらわが亡きあとには
ナルニアの王にしたいと
考えておる



館には
ターキッシュ・
デライトで
埋めつくされた部屋が
いくつもある





わらわは
ぜひと

そちの
類いまれなる
きょうだいに
会いたいのじゃ



いや
いまそちを
館に連れていけば

わらわは
そちのきょうだいに
会えぬことになる



そちは
王子になり

いずれは
王となる身

それは
約束しよう

しかし

王には
廷臣や貴族が
必要じゃ



そちの兄は
公爵とし

女きょうだいは
公爵夫人でしょう







あそこに
ランプが見えるで
あろう？



あれを越して
まっすぐ進めば
人間の世界に
出る



それから
こちらを
見よ



木々の上に
小さな丘が二つ
そびえておるのが
見えるか？

見える……

……と思います

わらわの館は

あの二つの丘の
あいだにある



こんど
来るときには
街灯を目印に来て

そこから
あの二つの丘をめざして
森を抜けてくるがよい



そして
忘れるで
ないぞ



——ほかの
きょうだいをや
連れてくるのじや

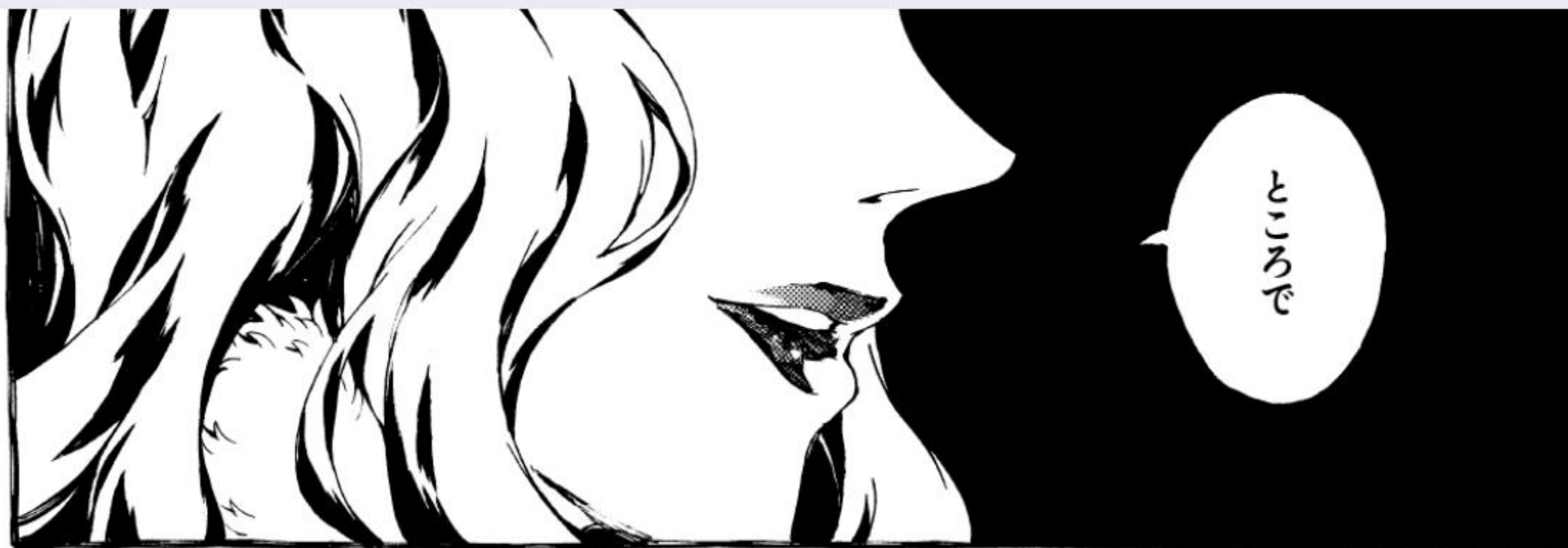
そち一人のみで
来るようなことに
なれば

わらわはひどく
立腹せざるをえぬ



できるだけ

やってみます



ところで



ほかの
きょうだい
には

わらわの
ことは
黙っておけば
よい



きょうだいを
驚かせて
やるのじゃ



わらわとそちと
二人だけの秘密に
しておくほうが

楽しかろう?



とにかく

ほかの三人を
あの二つの
丘のあいだへ
案内せよ

そちのように
頭のよい
子どもならば

口実など
いかようにでも
作れよう

そして
わが館に着いたら

『ここに誰が
住んでいるのか』

『見てみよう』

とでも
言えばよい

それが
いちばんよからう

そちの妹は
フォーンに
会ったことがあると
言うたな

——ろくでもない
話を聞かされて

ここへ来るのを
いやがるかもしれぬ

フォーンどもは
何を言うか
わかったものでは
ないからの

フォーンから

わらわについて
つまらぬ作り話を
吹きこまれておる
かもしれぬ

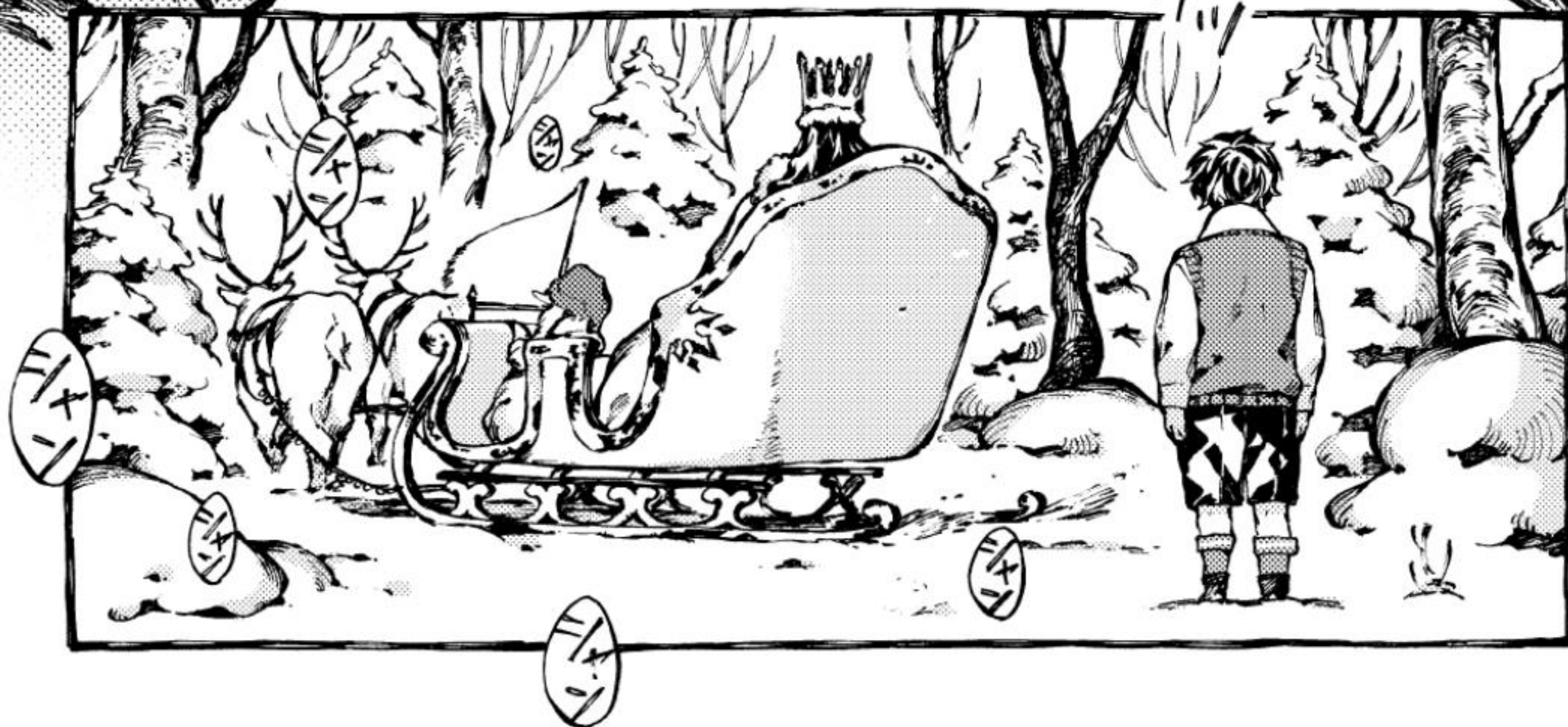
お願いします

お願いします

それから——

三











お兄ちゃん！



ねえ

ここって
すばらしいと
思わない？



お兄ちゃんも
こっちの世界に
来たのね！







とんでもない
女よ

自分のことを
ナルニアの女王って
言ってるんだって

女王になる
権利なんか
これっぽっちも
ないのに



フォーンも
ドリユアスも
※ナイアスも
ドワーフも
動物たちも
みんな――

…少なくとも
いい者たちは
みんな――

とにかくこの女が
大嫌いなんだって

※ギリシア神話の水の精で、泉や川の神の娘とされる

この女は
人を石に
変えることも
できるし

とにかく
ありとあらゆる
恐ろしいことを
するの

それに

魔法を使って
ナルニアをずっと
冬にしちやっただのよ

ずっとずっと
冬で

しかもクリスマスは
いつまで待っても
来ないの



それで

その女は
トナカイにひかせた
そりを乗りまわしていて

手には杖を
持っていて

頭に王冠を
かぶってるんだって

とにかく

あのターキッシュ・
デライトを
もういちど

食べたい……



——ああ







ほかの二人は



きっとフォーンや
動物たちの側^{がわ}に
つくにちがない



ぼくはもう

半分以上も
魔女の側に
ついてしまっ
て
いるから

みんなが
ナルニアにつ
いて話を始め
たらこの秘密
を隠しておけ
るか……



